福井空港の将来像と今後の取組方針について

令 和 ５ 年 ３ 月

福　井　県

目 次

１．将来像策定の趣旨

２．福井空港の現状と将来像

（1） 検討の過程

（2） 福井空港の現在の利用状況

（3） 福井空港の施設の現状

（4） 利活用・機能強化に向けたヒアリング

（5） 福井空港の将来像とその課題

（6） 空港ビルの再整備について

３．今後の取組方針

＜参考＞ 福井空港機能強化等タスクフォース概要

１．将来像策定の趣旨

福井空港は、昭和 41 年の開港後、昭和 51 年に定期便が休航、平成 15 年にはジェット化に対応した拡張整備計画が中止となったこともあり、現在はグライダーを含む小型固定翼機や、回転翼機に利用される空港となっている。

また、県警察航空隊や県防災航空隊、ドクターヘリの活動拠点として利用されているほか、宇宙航空研究開発機構（JAXA）等の航空技術の実証実験の場としても活用されている。

これまでは、滑走路長の関係から、福井空港に離着陸できる機材が限られてきたが、近年の航空技術の発達に伴い、現行の滑走路長でも離着陸が可能な短距離離着陸機がでてきており、福井空港の利活用を新たに見直す機会となっている。

また、福井空港ビルについては、昭和４０年度の竣工以来５７年が経過し、建物の老朽化が著しいものとなっていることから、空港ビルを含む空港全体の再整備を検討することが必要である。

さらに、災害が大規模化する中においては、広域的な災害にも対応可能な拠点としての空港機能が重要となってくるなど、新たな時代に相応しい福井空港のあり方が求められている。

このような状況の下、令和４年４月には、福井空港等を活用して、生活、医療、防災、産業、観光等の分野における地域貢献策を検討することを目的に、県内全市町長が参加する「福井の空を語る会」が発足した。また、８月には、体験飛行や航空講座等の利活用事業を行い小型機の利用活性化を図ることを目的に、空港ビル入居者等で構成される「福井県小型機活性化推進協議会」が発足するなど、利活用に関する新たな動きが出てきたところである。

本報告は、福井空港の利活用および機能強化のため、ビジネスや観光目的での小型固定翼機・回転翼機の利用といった新たな需要の開拓や、大規模災害時の拠点としての機能確保など、様々な社会的背景、将来的な展望を踏まえ、福井空港の将来像を示すものである。

なお、将来像の実現に向けては、空港ビル管理者や入居者、航空事業者、地元をはじめとした関係者などとの綿密な連携・協力により、実現を図るよう努めていく。

２．福井空港の現状と将来像

（1）検討の過程

福井空港機能強化等タスクフォースの設置
（目的：空港全体の機能強化や空港ビルのあり方の検討）

↓

福井空港の現状

↓

各関係者へのヒアリング等

○各関係者へのヒアリング
- ・既存の空港利用者、空港ビル入居者
- ・今後利用・連携する可能性のある者
  - 航空事業者
  - タスクフォース関係先（交通、観光、防災、救急医療、流通、研究開発）
  - 各市町
- ・地元坂井市

○他空港事例の視察、調査

↓

福井空港の将来像

↓

時間軸に沿った課題の仕分け

↓

今後の取組方針

（2）福井空港の現在の利用状況

福井空港は、昭和 39 年に運輸省の飛行場設置許可を得て、同年 5 月に工事着手、昭和 41 年 6 月 30 日に本県の空の玄関口として開港した。

福井空港の定期便については、開港当初は福井・東京間を 1 日 1 往復で就航し、昭和 43 年 4 月からは 1 日 2 往復に増便された。しかし、昭和 48 年に小松空港がジェット化され、小松・東京間が 1 時間で結ばれると、その影響で福井空港の利用客は激減し、昭和 51 年に定期便が休航となった。

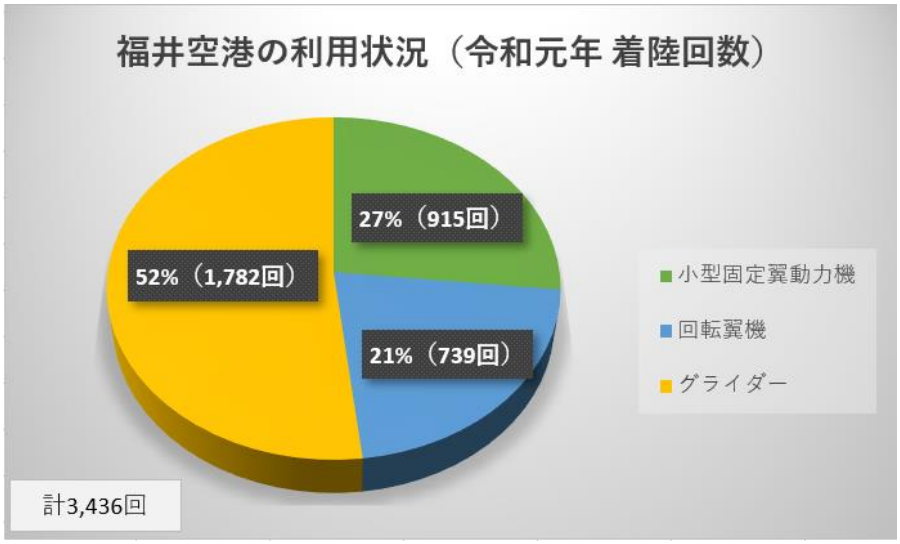
定期便がなくなった一方で、平成 3 年 2 月には県警察航空隊のヘリコプター、平成 9 年 3 月には県防災航空隊のヘリコプター、令和 3 年 5 月には福井県立病院を基地病院としたドクターヘリが配備されるなど、空から県民の安全、安心な暮らしを守る活動拠点として、また災害が大規模化する中においての広域的な災害対応の拠点として活用されてきた。

また、コロナ禍以前（令和元年）においては、福井空港における年間着陸回数（約 3,000 回）のうち、約半数がグライダーの利用となっており、学生の課外活動による利用が活発になされてきた。

さらに、操縦士ライセンス取得のための訓練施設、スカイフェス等の航空レジャーイベントの会場等としても活用されている。

管制については、管制機器の情報化の進展と管制官の配置合理化の一環として、平成 18 年 10 月から、福井空港の管制業務が中部国際空港からの遠隔管制に移行され（RAG 化）、その後、令和 3 年からは大阪対空センターでの遠隔管制となっている。なお、国が遠隔管制業務を継続するにあたって、計器飛行方式（IFR）による運航の定期的な利用が求められている。

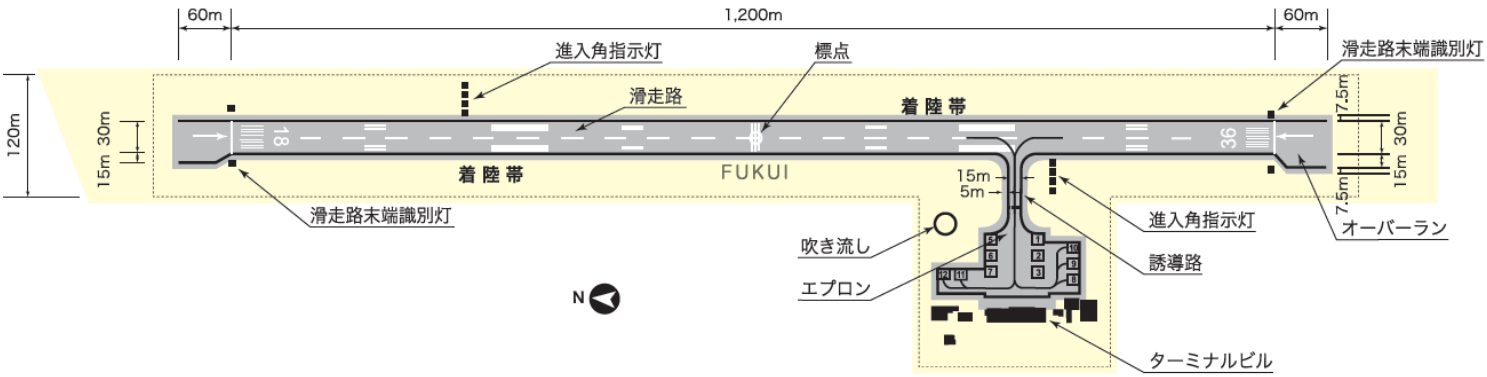
その他、JAXA が、「航空科学技術の研究開発促進に係る包括協定」に基づき、滑走路の雪氷検知技術に関する実験（令和2～3年度）や、気象レーダーを用いた被雷危険性予測技術に関する研究（令和4年度）を行っており、研究開発の場としても活用されている。



（3）福井空港の施設の現状

位置		福井県坂井市春江町江留中
基本設備	滑走路	長さ 1，200m×幅 30m ※滑走路長が 1,200m以下の空港は、国内全 97 空港 （ヘリポート・非公共用飛行場は除く）のうち、19 空港
	エプロン	8，634 ㎡、 駐機スポット 11 か所
燃料給油		以下２種類の航空燃料を供給 ・航空機ガソリン（アブガス） ・ジェット燃料
運用時間		9 時から 17 時まで（17 時までに日没となる場合は、日没まで）
格納庫		5 か所 （防災ヘリ格納庫 1 か所、ドクターヘリ格納庫 1 か所、 県警ヘリ格納庫 1 か所、民間事業者格納庫 2 か所）

【福井空港施設概要】



【福井空港ビルの現状】

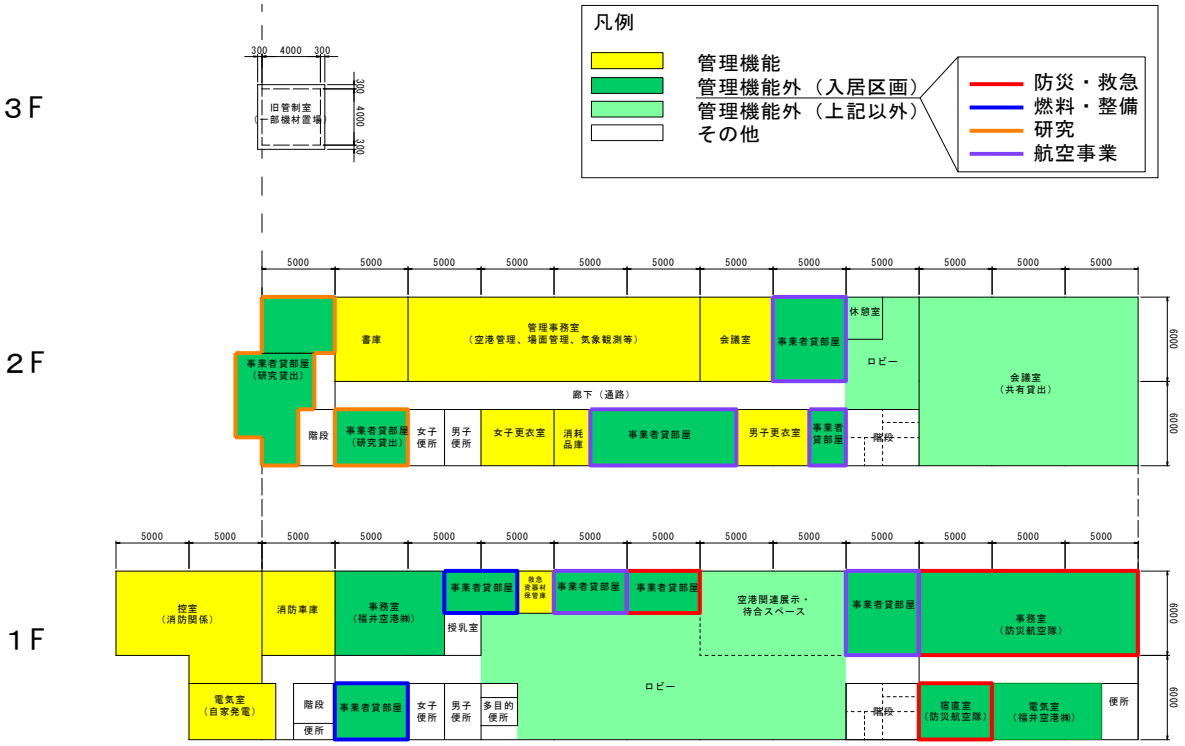
福井空港ビルは、第三セクターである福井空港(株)が所有し、ビルの管理・運営、貸室を行っている。

建設から57年が経過し、老朽化が著しいものとなっており、建替等が必要と考えられる。

【建物内の利用について】

空港管理事務所のほか、空港利用者への貸部屋、ロビーや展示待合スペースとしての利用が図られている。

＜福井空港ビル内平面図および利用状況＞



機能	主な内容
管理機能 （空港管理）	管理事務室（空港管理、場面管理、気象観測等） 会議室、書庫、消耗品庫、更衣室、電気室（自家発電） 控室（消防関係）、消防車庫、救急資材保管庫
管理機能外 （入居区画）	事業者貸部屋（防災・救急、燃料・整備、研究、航空事業） 事務室・電気室（福井空港㈱） 事務室・宿直室（防災航空隊） 旧作業室等（研究貸出）
管理機能外 （上記以外）	ロビー、空港関係展示・待合スペース 会議室（共有貸出）、休憩室
その他	トイレ、授乳室、階段、廊下（通路）、旧管制室

（4）利活用・機能強化に向けたヒアリング

福井空港の今後の存続、発展のためには、利用者の拡大、航空関係者による持続的な利用の確保、地元の理解が必要となることから、今後の活用の方向性について、利活用および空港ビルの面から、関係者へヒアリングを実施した。

1．利活用について

ヒアリング先	主なヒアリング内容のまとめ
航空事業者	・福井空港はプライベート機が利用しやすく、今後利用増加の可能性が高い ・エプロン内での他の航空機や車両への乗り継ぎを望む利用者の声がある ・県内でのヘリ運航に向け、県内主要観光地付近や交通結節点等に場外離着陸場の確保が必要 ・駐機スポット数や格納庫用地の不足、運用時間の短さが課題 ・海外利用者の呼込みのためCIQ対応の実施が望ましい
既存の空港利用者 空港ビル入居者	・現在の燃料給油、機体整備機能の維持・確保 ・駐機スポット数や格納庫用地の不足が福井空港の課題（再掲） ・グライダーの訓練や、個人の飛行ライセンス取得ができるというのが特徴
各市町	・防災拠点としての活用が望ましい
県内生産者等	・速達性が求められる生鮮食品等の輸送において航空機が活用できる可能性がある ・販路や航空機輸送前後の二次輸送、料金設定が課題
防災・救急医療関係者	・大規模災害時の防災ヘリやドクターヘリの参集拠点としての機能強化のため、駐機スポット数の増加が望ましい

2．空港ビルについて

ヒアリング先	主なヒアリング・情報収集内容のまとめ
既存の空港利用者 空港ビル入居者	・ターミナルビルの形態を基本に、各入居者の充分な活動スペースを確保してほしい ・共有で利用できる貸部屋があるとよい ・建物内に飲食店があるとよい ・屋上の開放など、展望スペースを拡張できるとよい
航空事業者	・現状2階で行っている離着陸手続きを1階で行うなど、利用者の動線を変更し、空港ビルの利便性を向上させることが望ましい ・ロビーの展示内容をリニューアルした方がよい ・乗務員の待機場所を確保してほしい
各市町	・教育機能など多目的での利用が可能になれば利用者増加につながる ・一般県民の展望スペースを確保してほしい
研究機関	・研究スペースを確保してほしい ・ネット通信環境の確保が望まれる
他空港事例	・管理事務所機能のみのビル整備（岡南飛行場）

（5）福井空港の将来像とその課題

各関係者からのヒアリング等をもとに福井空港の将来像と課題を整理した。課題については、実現可能性や整備の優先度を考慮のうえ、「短期的課題」、「中期的課題」、「長期的課題」という形で、仕分けを行った。

【福井空港の将来像】

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存しながら、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

〇多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す
〇防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す

将来像を実現するために短期、中期、長期に分けて進めていく（詳細については「3．今後の取組方針」に記載）

短　期（目途）R5 年度～R6 年度＝挑戦
〇様々なモニターツアー等により、福井空港の利活用の可能性を探る
〇利活用の状況を踏まえて、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめていく

中　期（目途）R7 年度から5年程度＝実践
〇事業採算性のある取組の商業運航の開始を目指す
〇新空港ビルの構想を踏まえて、空港ビルを再整備する

長　期 ＝飛躍
〇駐機スポット数や格納庫用地の拡充などさらなる空港施設整備を検討し、定期的な利用を目指す

【時間軸に沿った課題の仕分け】

＜短 期 的 課 題＞

（1）県内着陸帯（場外離着陸場）の確保

（2）福井空港の特徴の周知（離着陸の時間調整やエプロン内での乗り継ぎについて柔軟に対応可能）

（3）インバウンド受入れに向けた CIQ 対応の運用を検討（必要スペース、動線、国との事前協議）

（4）空港ビルの利便性向上（離着陸手続きの動線の変更）

（5）ビル内における情報発信（ロビーの展示内容のリニューアル）

（6）展望スペースの拡張（屋上の開放など）

（7）乗務員用の待機場所の確保

※（4）～（7）は、空港ビル、施設に関する課題

＜中 期 的 課 題＞

（1）採算性のある事業の見極め

（2）福井空港の特徴の継続的な周知

（3）インバウンド受入れのための継続的な CIQ 対応の実施

＜長 期 的 課 題＞

（1）運用時間の延長

（2）空港までのアクセス向上

（3）既存の用地内における施設の拡充（スポット、格納庫用地、照明設備等）

（4）事業者用貸部屋や会議室(共有スペース)の維持、拡充や、多目的利用(研究開発や教育実習)のためのスペースの確保、CIQ や災害時参集スタッフ等のためのスペースの確保、運用時間の延長

※（3）～（4）は、空港ビル、施設に関する課題

＜継 続 的 な 課 題＞

（1）燃料給油、機体整備に係る事業者の継続的な確保

（6）空港ビルの再整備について

【空港ビル再整備にかかる方針】

福井空港ビルは、昭和40年度の竣工以来57年が経過し、老朽化が著しいものとなっており、建替等が必要と考えられる。

空港ビルの再整備にあたっては、管理事務所機能に加え想定される付加機能を整理のうえ、令和5年度から6年度にかけて、利活用の状況を踏まえ、入居者や地元等関係者と協議を行い、現空港ビルの管理者と調整のうえ、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめる。また、令和7年度から5年程度をかけて、新空港ビルの構想を踏まえ、空港ビルを再整備する。

【管理事務所機能に加え想定される付加機能】

〇プライベート機による県内誘客
- ・ロビー（待合・展示）
- ・海外からの来県に備えた CIQ スペース（保安検査等）

〇航空運送事業者等の事業参入
- ・旅客受付（カウンター等）
- ・待機、休憩所（乗務員用）

〇地域住民の交流、空港利用者へのサービス向上
- ・ロビー（待合・展示）
- ・展望スペース

〇大規模災害発生時の拠点確保
- ・待機、休憩所
- ・会議室（共有使用）

〇新たな販路の開拓
- ・事業者用貸部屋（貨物保管・作業スペース）

〇研究開発促進
- ・事業者用貸部屋（研究スペース）

〇グライダーの聖地や飛行訓練施設としての利用促進
- ・待機、休憩所
- ・会議室（会議・講義スペース）

〇教育実習への活用
- ・ロビー（展示スペース）
- ・会議室（実習スペース）

〇空港における活動への側面的支援
- ・事業者用貸部屋（燃料給油、機体整備事業者）
- ・会議室（共有スペース）

＜空港ビル機能の整備イメージ＞

目　的	機　能	現　状	将　来
管理	管理事務所	○	○
旅客利用の増加	ロビー	○	現状有する機能について継続の必要性を検討
地域交流等	展望スペース	○	
利用者の活動スペースの確保	事業者用貸部屋	○	
	会議室（共有スペース）	○	
旅客利用の増加	CIQスペース（海外客対応）	—	追加の必要性を検討
	受付スペース（カウンター等）	—	
利用者の活動スペースの確保	待機、休憩所（乗務員、飛行訓練者、災害対応従事者用）	—	
その他利便性向上	飲食店、イートインスペースの整備等	—	

３．今後の取組方針

【空港全体の機能強化について】

（1） 短　期 （目途）R5年度～R6年度

〇民間事業者によるヘリの運航について、市町と連携して県内主要観光地付近等（スキージャム勝山駐車場等）に場外離着陸場を確保のうえ、広く試験飛行を実施して活用の可能性を検証し、観光目的での新たな利用を提示する

〇プライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、離着陸の時間調整やエプロン内での乗り継ぎに柔軟に対応できるという特徴が一般に認知されていないため、営業ツールを作成し、県外事務所等と連携するなど利用を呼びかけるとともに、旅行商品のモニターツアーの実施などにより、観光・ビジネス目的での利用増加を図る

〇ビジネス目的で小型ジェット機を利用する企業への補助や、未婚のカップルを対象とした小型ジェット機による遊覧飛行の実施

〇国外からのプライベート機の受入に向けて、CIQ対応について運用を検討し、さらなる利用促進を目指す

〇既存の空港ビルについて、離着陸手続きの動線変更やロビーの展示内容のリニューアルなどにより有効活用し、利用者等の満足度向上を図る

〇9月の「空の日」にあわせたスカイフェスの開催や、体験搭乗会の実施など、地元住民が空港に足を運ぶ機会の増加を目指す

〇燃料給油や機体整備機能の維持を検討するほか、グライダーや小型機による継続的な利活用を図る（※中期以降も共通）

〇空港運用について、現在の空港施設（照明設備なし）での運用時間の延長を地元と調整のうえ検討する

（2） 中　期 （目途）R7年度から5年程度

〇民間事業者によるヘリの運航について、プライベート機や小型ジェット機のチャーター利用との接続も視野に、ヘリの運航事業者による県内主要観光地等を結んだ商業運航の開始を目指す

〇国内のプライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、県外事務所等と連携して営業活動を継続し、更なる利用増加を図る

〇国外からのプライベート機について、海外事務所等と連携して福井空港の利用をPRし、福井空港での受入を目指す

（3） 長 期

〇空港運用について、照明設備を新設したうえでの運用時間延長の検討、アクセスの向上を図り、さらなる活性化を目指す

〇空港ビルの再整備とあわせ、駐機スポット数や格納庫用地などの空港施設を拡充し、地元理解と事業採算性を前提に、現在の福井空港に離着陸可能な航空機・ヘリによる定期的な利用を目指す

〇駐機スポット数を拡充し、大規模災害時における防災ヘリやドクターヘリの参集拠点としての機能強化を図る

（4） さらなる展望

〇貨物輸送については、安定的な需要の確保、輸送コストの縮減といった課題があるため、今後需要を探り、定期的な輸送の可能性を検討していく

〇機体整備工場、航空運送事業者の活動拠点、空港に関係した体験施設などの整備については、今後需要を探り、可能性を検討していく

〇「空飛ぶクルマ」など次世代モビリティについては、国内での実証実験の進捗を見て、今後、受入れに必要な対応を検討していく

【空港ビルの再整備について】

令和5年度から6年度にかけて、利活用の状況を踏まえ、入居者や地元等関係者と協議を行い、現空港ビルの管理者と調整のうえ、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめる。また、令和7年度から5年程度をかけて、新空港ビルの構想を踏まえ、空港ビルを再整備する。

＜空港ビル機能の整備イメージ（再掲）＞

目 的	機 能	現 状	将 来
管理	管理事務所	〇	〇
旅客利用の増加	ロビー	〇	現状有する機能について継続の必要性を検討
地域交流等	展望スペース	〇	
利用者の活動スペースの確保	事業者用貸部屋	〇	
	会議室（共有スペース）	〇	
旅客利用の増加	CIQスペース（海外客対応）	—	追加の必要性を検討
	受付スペース（カウンター等）	—	
利用者の活動スペースの確保	待機、休憩所（乗務員、飛行訓練者、災害対応従事者用）	—	
その他利便性向上	飲食店、イートインスペースの整備等	—	

＜参考＞　福井空港機能強化等タスクフォース概要

【構成メンバー】（7部9所属22名）

チーム長	土木部　副部長（防災・特定事業）	
副チーム長	地域戦略部　新幹線・まちづくり対策監	
土木部	港湾空港課	空港全体の機能強化の調整、空港管理機能
	福井空港事務所	空港管理機能
地域戦略部	交通まちづくり課	航空交通利用対策・まちづくり
	未来戦略課	JAXAと連携した研究開発拠点
交流文化部	観光誘客課	観光利用
安全環境部	危機対策・防災課	防災拠点
健康福祉部	地域医療課	救急医療
農林水産部	流通販売課	県産農林水産物販路拡大
産業労働部	企業誘致課	空港利活用に関連した企業情報収集、誘致検討

【活動状況】

空港全体の機能強化や空港ビルのあり方について検討することを目的に、令和4年2月に「福井空港機能強化等タスクフォース」を設置し、随時、以下の取組を実施

〇タスクフォース検討会の実施（計8回（令和5年3月時点））
〇「福井の空を語る会」の検討部会等への参加
〇各関係者（既存の空港利用者、空港ビル入居者、各市町、航空事業者、タスクフォース関係先（交通、観光、防災、救急医療、流通、研究開発）、地元坂井市）へのヒアリング
〇他空港事例視察
〇その他、利活用の機運醸成のためのイベント等を実施
・R4. 4.27　福井空港小型航空機利活用推進大会開催
（主催：福井県、共催：福井の空を語る会）
・R4.11. 5　グライダー体験搭乗会
（主催：福井県、共催：福井の空を語る会）
・R4.11.15　小型機体験搭乗会
（主催：福井県小型機活性化推進協議会、共催：福井の空を語る会、福井県）
・R4.12. 3　小型ジェット機とハイヤーの接続実証実験
（主催：福井県）